

第3回 斐伊川放水路環境モニタリング協議会 議事要旨

開催日時：平成29年3月1日(水) 13:30～15:30

場 所：出雲河川事務所

議事要旨：

1. 資料1：指摘事項と対応

- ・資料-1 について、事務局から説明を行い、以下の質疑及び助言がなされた。
- ・(委員) pH 測定について、機器の校正等の精度確保については了解した。ただし、やはり pH が 10 を超えるのは特異な状況であり、計測値が異常値を示すこともままあるので、現地調査時には計測器を 2 台用いるなど、工夫をお願いしたい。

⇒了解しました。ご指摘の点に留意して調査を行います。

2. 資料2：3巡目モニタリング調査結果の概要

- ・資料-2 について、事務局から説明を行い、以下の質疑及び助言がなされた。
- ・(委員) データ集で確認すると、St. 3 でトンボ類が多く確認されており、良い環境に思われる。この地点について、環境などを教えてほしい。

⇒P. 32～33 に、全景写真を掲載しています。

- ・(委員) 「シジミ属」はタイワンシジミかマシジミかと思うが、なるべく詳しく同定した方がよい。確認したいがサンプルを保管してあるか。

⇒保管しています。

- ・(委員) コウノトリについては、実は 5 個体の飛来情報があり、うち 1 個体の死亡が確認されている。

- ・(委員) イタチについてはマニュアル等の問題かもしれないが、ニホンイタチとチョウセンイタチで示した方がよい。

⇒表の脚注に無人撮影では両種の判別がつかない旨を、コメントしています。

- ・(委員) St. 8 のブルーギルやオオクチバスについては、放流している可能性もある。河川パトロール等の際に確認するなどの対策をたてた方が良い。

⇒河川管理者として何ができるか検討します。

- ・(委員) AW4 については、非常に小さくなっているので、今後も留意してほしい。また、AW8 については、平面図で見ると、形状が大きく変わっているように見受けられる。このワンドについても、留意する事。

⇒AW8 はマコモを植えたワンドだが、そのための変化ではないと思われます。AW4、AW8 については、今後も変化に留意します。

- ・(委員) 粒度分布について、St. 6 は底層にもシルト粘土分が溜まっていることがわかる。今後の調査でも留意する事。

⇒了解しました。今後の調査でも留意します。

- ・(委員) 粒度分布について、St. 6 は底層にもシルト粘土分が溜まっていることがわかる。今後の調査でも留意する事。T-N、T-P は今回の資料では出ていないが、栄養塩類の堆積という面からも、シルト粘土分に留意してほしい。

⇒了解しました。今後の調査でも留意します。

- ・(委員) ヒモハゼについては、これまで島根で確認されていない為、島根の RDB に記載されていない可能性がある。貴重なデータであり、標本などをしっかり残してほしい。

⇒了解しました。

- ・(委員) 今後も、漁協との連携に留意してほしい。どういうことかという、モニタリングでシジミ・アユについてモニタリングしていることは評価できる。一方で、産卵場の詳細調査の中止などもあったことから、漁協とよく連携して調査を進めて欲しいということ。調査で得られた情報は、漁協にとっても有益であるので、うまく連携してほしい。

⇒了解しました。今後の調査でも留意します。

- ・ **(委員)** シジミについて、大きな個体が減っている印象がある。

⇒ 漁区と禁漁区が入れ替わっており、漁協が稚貝を撒いているので、傾向について何か言うのは難しい。

- ・ **(委員)** シジミとシルト粘土分との相関はあるのか。

⇒ **(委員)** シルト粘土分が多いと、稚貝が少ない。一方で、その場で成長すれば大きな個体となる。

- ・ **(委員)** 漁協の禁漁区に対するビジョンなども聞いてみたい。

3. 資料3：4 巡目モニタリング調査計画の変更

- ・ 資料-3 について、事務局から説明を行い、来年度計画が承認された。また、以下の質疑及び助言がなされた。

- ・ **(委員)** 環境ではなく、治水の観点で恐縮だが、運用後に河口閉塞の状況はどうか。場合によってはモニタリングが必要ではないか。

⇒ 現在は河口閉塞に対するモニタリングは行っていない。河川巡視において閉塞を確認した場合には、速やかに土砂撤去を行っているので、モニタリングは行わない。